

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1295100026		
法人名	社会福祉法人 八光聴		
事業所名	多古グループホーム		
所在地	千葉県香取郡多古町南玉造460-81		
自己評価作成日	平成31年3月13日	評価結果市町村受理日	令和元年6月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku./12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート楽楽		
所在地	千葉県旭市口1004-7	TEL	0479-63-5036
訪問調査日	平成31年3月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入所者と家族の関係性が良く、入所者家族が施設に対して協力的であることで職員も安心して支援を続けることができる。職員の移動がほとんどなく、職員の1人ひとりがしっかりと入居者に向き合いながら支援していく環境ができています。職員は介護者としての経験が長いことに加え、介護以外の経験が豊富な職員も多く、お互いのスキルを活用しながら入所者のために活動している。職員間の人間関係も安定しているので、入所者の気持ちを汲み取りどうしたら安心して楽しくその方らしく過ごしてもらえるかチームとして考えながらの支援が安定して提供できる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員の入れ替えがほとんどなく、職員同士の連携も取れており情報共有がなされ、チームとして安定した介護が出来るようになっていく。家族との関係も良く利用者・家族が安心して過ごせる環境になっている。地域柄近くに民家がないが、同敷地内の他施設との連携により友人関係の継続や避難訓練時の対応などに工夫をし、より良い介護の提供をしていく姿勢がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の運営理念を玄関の目につきやすい場所に掲げて職員全員で実践し、すべての利用者がその人らしく幸せに生活できるよう努めている。職員の異動がほとんどないので利用者としっかりと向き合うことができる。	法人と別の理念を掲げている。職員は立ち上げより同じ職員であり理念は周知されており、日々の業務にも取り入れながら行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の団体、事業所、民生委員と積極的に情報交換を行っている。地域で行われる催しにも参加するようにし、施設外であった時に気軽声をかけて頂ける関係を作っている。	周辺に民家が少なく町内会に参加していないが、民生委員、駐在さんとは顔見知りであり、地域の行事に積極的に参加することにより地域との繋がりはある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学希望の方を受け入れ、グループホームや認知症について理解を頂けるようにしている。問い合わせ等あった時には可能な限り傾聴し日頃の業務で知り得た知識や経験を伝えるようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の団体、事業所、利用者の家族を招き、定期的に会議を開き地域の情報を共有したり医療的な面でのアドバイスを受けていたりしている。そこで得た情報や意見等を日頃の介護に生かし迅速に対応できるように職員間の連携を図っている。	利用者家族、民生委員、役所職員、駐在などの参加率は高く報告などを行っている。会議内容は職員で共有し日々生かしている。議事録の作成はない。	会議記録を作成し、会議内容を後で確認できるような対策を望みます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の担当者とは日常的に連絡を取り合い、お互いの信頼関係を築きつつ可能な限りの協力体制を構築している。ケアマネ連絡会にも参加し情報を得るようにしている。	市町村との連携は取れており、協力体制は出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の人格を尊重しその方らしい生活をおくっていただくため防犯上やむを得ない場合を除き拘束は行わないよう全職員で取り組んでいる	内部・外部研修を行い記録とし残してある。利用者に向けた対応を職員と話し合い医師と内服等の相談を行い一人一人への対応をし拘束がない状態にしている。	
7		○虐待の防止の徹底	現状において利用者ご家族、利用者職員		

[評価機関]

特定非営利活動法人ライフサポート楽楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現状において利用者ご家族、利用者ご職員の関係性は良好で虐待と思われる行為があるとは考えにくい。目に見えない言葉の暴力などを含め、今後も研修などを通じて虐待が見逃されないよう注意を喚起していく。		

[評価機関]

特定非営利活動法人ライフサポート楽楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法的なものについては苦手意識を持ちがちではあるが、可能な限り研修や受講の機会を持ち、制度や法律を理解することが大事なことであることを意識してもらえよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては一方的に説明するのではなく利用者や家族が十分に理解、納得されたうえで契約して頂くようにしている。疑問に思うようなことは十分説明し希望があれば可能な限り対応で来るようすり合わせをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族等とよりよい関係性を構築するとともに意見、要望の出た時は随時検討し可能な限り反映させ、場合によっては関係機関に報告または指導を受ける。	家族は直接管理者へ相談できる環境であり、相談内容は常に共有している。家族への対応は、全職員が出来るようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員会議や毎日のミーティングの中で運営上の意見や提案を汲み上げ柔軟に対応、反映させている。	職員は連携が取れており、意見が言いやすい雰囲気であり、実際に意見も出ている。意見は汲み上げ対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	行事などの運営については広く意見を求め、行事日の職員数を増やすなど柔軟に対応している。職員の希望や個々の事情などを考慮し積極的に仕事に取り組める働きやすい環境づくりをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内研修を定期的に行い研修の機会を作っている。外部の研修についても情報を提供し参加しやすい環境づくりをしている。働きながら外部の研修を受けたいと希望する職員に対して勤務の調整等の相談を受ける		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多古町の認知症デイや小規模多機能サービスを行っている事業所との交流や相談等を行っている。お互いの事業所の訪問等を行うことの中で学ぶことも多い。		

[評価機関]

特定非営利活動法人ライフサポート楽楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・家族と十分に話し合い、希望や思いを汲み上げて初期のケアプランを作成。入所後の様子を見ながら細かい修正を加え本人との信頼関係を築けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族から入所までのお話をゆっくりと聞き取るよう心掛けている。家族の気持ちに寄り添いながら入所後の希望・相談等を受け止め、家族との信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは本人に新しい環境に慣れて頂くことから始めている。本人の様子をよく観察しながら、本人や家族が必要としている支援を見極めて改善に向けた援助の提案をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残されている能力を活かしながら活躍の場面を作るようにし、出来たことは一緒に喜び一緒に生活しているという実感を持てるような関係性を目指している。人生の大先輩から教わることが多いと職員も実感している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の日頃の様子や思いを家族の面会時に伝えたり、ケアマネや担当から近況報告として手紙で伝えたりしている。面会しやすい環境作りに努め、離れて暮らしていても関係性や絆を継続できるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方や馴染みの方が訪問しやすい環境づくりに努めている。外出時など馴染みの場所に立ち寄り、外部の催しに参加することで馴染みの人と交流できるようにしている。	同じ敷地内のデイサービスに、友人が来ている日は会いに行ったり、年賀状の出したりしている。外出や外食に行く機会もあり、友人と偶然会う事もある。行事参加で友人との交流も出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者間の関係性を把握して気の合う方と席を近くするなど工夫している。利用者間でトラブルが発生しないように見守りながら調整を行っている。誰もが孤立せず楽しい時間を過ごせるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への移動したり入院が長引いたりした時も見舞いや面会に出かけたり近況を気にかけている。家族との関係性も可能な限り継続し、必要な場面では相談や支援を行えるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や日頃の様子からできる限り本人の希望や意向を確認する。家族から情報を頂くこともある。職員間で情報を共有することで理解を深めるようにしている。	外出は定期的に行き、担当者が利用者の要望を聞き行く場所を決めている。家族との連携も取れており、外泊は定期的に行えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントシートを利用し、本人や家族からの聞き取りで情報を集めている。以前使っていた事業所や担当ケアマネへの問合せも行い参考にする。本人や家族との何気ない会話の中からヒントをもらうこともしばしばある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が入居者の状況を把握している。ミーティングや職員会議、申し送りノートを通じて職員間の情報交換を密に行い、個々の生活や心理面等の変化を把握し職員間で共有するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成の前に本人や家族に聞き取りを行いさらにカンファレンスで意見交換を行い家族の思いや意見を反映させるようにしている。	定期的に見直しを行い、全職員と共有し書類に書類に職員確認印がある。評価は行っているが一つ一つの目標に添ったものにはなっていない。	一つ一つに添った評価を記入出来るような工夫が必要です。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や通院記録、検温版等を利用して身体状況、生活状況を知ることができるようにしている。それらを基にしてケアプランの見直し・評価につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院の送迎、外出の支援はホームで柔軟に対応している。本人の希望に応じて可能な限りの対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域生活を継続するため民生委員、区長、地域団体、地域包括支援センター、警察、消防署とのつながりを持つように努める。法人内他施設とのつながりも大事にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は1か所の病院に限ることなく、希望するかかりつけの医療機関を受診している。受診・送迎は施設が便宜を図り結果については家族に報告している。緊急時には家族の同行をお願いするようにしている。	希望するかかりつけ医への受診でき、職員が送迎を行い、家族へ毎回報告を行っている。緊急時には家族の同行をお願いしている。歯科への通院は2週間に1回行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	多古町訪問看護ステーションに依頼し週1回の健康チェックをお願いして適切な指示助言を頂いている。24時間体制で相談することができ、状況変化に応じて訪問を受けたり、受診や見守り対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院による本人・家族の不安を和らげるために面会を行う。カンファレンスに参加するなど医療者との面談を行い早期退院ができるよう働きかけている。グループホームの特性を理解して頂けるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	受診時・入院時等に家族や主治医と話し合いを行い、本人・家族の希望に事業所として出来ることを説明している。主治医・訪問看護ステーション・家族の協力を得ながら支援に取り組んでいる。	終末期については、入所時に同意書をもらい、実際に対応が必要な時に家族との話し合い病院ぐるみでカンファレンスを行い、本人と家族の要望に添えるように支援している。看取りは行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生に備えて応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い実践力を見につけるようにしている。また感染症についても研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回実施し、入所者が安心、安全に避難できるよう全職員が身につけるようにしている。うち1回については法人内他施設との協力体制を取れるよう合同の訓練を行っている。	法人が備蓄管理を行っている。年2回避難訓練を行い、夜間想定もしている。同敷地内の他施設との連携をするようにしている。救急講習も交換で受講している。	避難訓練結果の反省などの書類の整備を望みます。

[評価機関]

特定非営利活動法人ライフサポート楽楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、その方にあった声掛け・対応を心掛けている。排泄や入浴についてはより注意するようにしている。ミーティングなどで日々の関わり方について検討し職員の意識の向上を図っている。	スピーチロック等への対応もし、利用者の表情を見て対応している。ミーティングで職員と話し合いをし、意識向上を図っている。外部研修へも参加し内部研修もしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人が思っていることを遠慮なく言いやすい環境を作るようにしている。一律に「～しますよ」という声掛けでなく自分の気持ちを表現しやすいような声掛けを心掛けるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の過ごし方や過ごす場所については入居者本人が決めている。孤立しないよう声掛けし食事は一緒に摂れるようにしているが、本人の希望や体調を尊重し本人のペースを優先する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容サービスを利用している。意思表示ができる方の髪型等は美容師さんと本人が相談して決めている。衣類も本人が職員と相談しながら選び、おしゃれな気持ちを忘れないようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼・夕食は食材を注文している。朝食は入所者に声をかけて決めている。季節の野菜等の下ごしらえを一緒にしたり、味見をしてもらったり一緒に楽しめるようにしている	食器は一人一人本人の物を使い、何も無い時でもお重(松花堂弁当)へ入れたり、食事を楽しめるようにしている。食料の買い出しを一緒にし、下ごしらえも一緒にすることで食べてくれる物もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量を毎食チェック。栄養士により毎食カロリー算出し栄養摂取量を把握している。食が細くなった方に対しては家族に好みの味付けを確認したり、細かくするなど食べやすくなるよう工夫しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	希望があれば通院や訪問で歯科診療を受ける。毎食後歯磨きし口腔ケアを行う。十分に磨けない方には声掛け・仕上げ磨きで清潔に努めている。義歯については毎食後洗浄、夜間は預かって洗浄液で消毒保管する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用。尿意のはっきりしない方も声掛けトイレで排泄できるよう支援している。出来る限りおむつに頼らないで排泄できるよう工夫している。	排泄チェックを行い、声掛けの工夫などでトイレ誘導をし、失禁も少なくなっている。パットやリハパンの使用も減っており、内服に見直しを行い、排泄の自立支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は便秘が及ぼす影響を理解し、毎朝適度な運動、多飲水や食物繊維の摂取を促し自然な排便を目指している。下剤については主治医や看護師と相談しながら適切な量とタイミングで服用できるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めてはいるが本人の希望があれば柔軟に対応。拒否する方に対しては入浴の時間、方法、声掛けの仕方等工夫。個々への対応方法は職員全員が共有し、気持ちの良い入浴が継続できるようにしている。	基本は週2回の入浴だが、本人の希望があれば対応できるようになっている。季節を大切にし柚湯や菖蒲湯等も行っている。入浴を職員と二人きりの時間とし、ゆっくり話を聞くようにし、全身チェックも行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の生活リズムを整え、一人ひとりの体調を考慮し休憩をとるよう促している。眠れない時にはその方に寄り添い就寝できるまで見守る。睡眠導入剤など医師と相談しながら可能ならば減薬できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が処方箋ファイルや薬剤情報をいつでも確認できるようにしている。一覧表で簡単に確認できるよう工夫している。介助の際は誤薬のないよう十分に注意しきちんと飲めたかも確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、たたみなど入居者が活躍できる場面を作っている。季節によっては草取りや庭掃除のお手伝いもお願いしている。職員と芋煮をしたり鍋を作ったり、想像以上に能力を維持してたことに職員が驚かされた。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候や体調を考慮しながら散歩やドライブ等に出かけている。特に行き先を決めずに馴染みの場所をドライブしたり、出先で知り合いの方と会って話が弾むこともある。家族と出かける時はスムーズに外出や帰園ができるよう配慮している。	定期的に出かけており、その日の天候や体調で散歩・ドライブにも出かけている。利用者の要望を聞き外食なども行い、書類には全職員の印がありファイルされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則的には金銭は預かるようにしているが、希望があれば個人で所持してもらうことも可能。外出時に支払いしてもらうことある。(見守りしながら)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人と電話をしたり手紙のやり取りができるよう支援している。年末には全員が家族に年賀状を書いている。職員は助言やお手伝いをするが入居者はそれぞれ一生懸命に仕上げポストに投函する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中は外の光や風が良く入るつくりとなっている。天気の良い日には窓を開けて換気するようにしている。感染症の予防の観点からも換気や湿度をこまめに行い、居心地よく過ごせるようにしている。夜間は個々の希望に合わせた室温調整をしている。	廊下に物は置かず、整理されている。加湿器があり室内の環境を整えている。入口・洗面等に生花が生けてある。定期的に清掃を行い清潔保持に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の方が自分の落ち着く場所で過ごせるよう支援している。居室で編み物や読書など自分の好きなことをして過ごすこともできる。窓際で日光浴しながらおしゃべりする方もいればソファで休む方もいる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際に使い慣れた馴染みの品物を持って来てもらったり、誕生日の写真入りの色紙や家族の写真等居室に自由に飾っていただき居心地の良い空間作りをしている。ご主人の仏壇を置いている方もいる。	自分の物の持ち込みはしてもらっている。写真など部屋に自由に飾っている。居室担当があり衣替えは職員や家族が協力し定期的に行っている。ポータブルトイレには目隠しにタオルをかける配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレの場所がわからなくなる時もあるので大きな表札を見やすい場所に貼っている。手すりや家具の配置など動線を考慮しながら少しでも歩きやすく転倒しにくいように工夫している。		